2021年度

事　業　計　画　書

2021年　4月　1日から

2022年　3月 31日まで

公益財団法人 日本科学技術振興財団

目　次

総合活動

Ⅰ．役員会等　・・・・・・・・　1

事業活動

Ⅰ．科学技術振興事業　・・・・・・・・　4

１．科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営保守支援　4

２．科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催　10

３．科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究　13

Ⅱ．情報システムの設計開発と運用サービス事業　・・・・・・・・　14

Ⅲ．科学技術館施設の利用促進事業　・・・・・・・・　15

Ⅳ．補助を得て実施する事業　・・・・・・・・　16

Ⅴ．助成を得て実施する事業　・・・・・・・・　17

［総合活動］

Ⅰ．役員会等

１．会議の開催

⑴ 理事会の開催

⑵ 評議員会の開催

⑶ 常勤理事会の開催

２．対外機関との連携活動

⑴ 北の丸科学技術振興会

公益財団法人日本科学技術振興財団への移行にあわせ、賛助員制度を発展的に解消し「北の丸科学技術振興会」を立ち上げています。「北の丸科学技術振興会」は、企業、研究機関等との連携を強化し、わが国の科学技術の振興に貢献することを目指します。

⑵ 各種外部企業・団体との連携活動

企業・団体との各種連携活動を強化します。

⑶ 国民公園を活用した地域連携活動

環境省や国民公園協会等との連携活動により北の丸地区の特徴を生かし、環境と科学技術に関するイベントの企画、協力、実施を図ります。

３．組織

財団の諸事業と組織が効率的に事業を推進させるため､柔軟に組織の変更ができるよう体制を整えます。

⑴ 各部との事業連携・人材育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、職員研修、科学技術館業務報告会等、財団職員の育成強化を図ります。

⑵ 公益目的事業に沿った組織と区分統合

公益目的事業の実行体制の変化に伴い効率的な組織の見直しを図るとともに、区分の統合により公益目的事業をより一層効率的・効果的に推進します。

４．広報活動

財団全体に関わる各種広報活動を推進します。

⑴ 財団広報活動

これまでの広報活動をさらに検討・発展させ、効率的かつ効果的な手法を計画して確立し、財団の諸活動を広く一般に伝えることで存在価値を高めます。

⑵ 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を発行します。

⑶ SNS やメール配信等による情報発信の充実

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の新着情報を Twitter などの SNS やホームページ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信します。

５．新型コロナウィルス等感染症対策について

2020 年度より蔓延している新型コロナウィルスの感染症への対策を評価し、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を行います。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館で有る様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底していきます。

［事業活動］

Ⅰ．科学技術振興事業　（ 989 百万円 ）

１．科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

１－１．科学技術館の常設展示の運営

主として次代を担う青少年、そして親子連れ、家族連れを対象に、実際に見て触れて試すことで楽しみながら理解に近づく体験型の展示手法を用い、好奇心・探究心・創造性を育みつつ科学技術・産業技術の振興と理解増進に繋がる情報・知識の普及啓発活動を展開します。また、目標を持った継続・反復となる活動を展開する「サイエンス友の会」の活動充実を図るとともに、効果的な期間に特別展を開催するなど機会をとらえた事業活動を行います。

2020 年度は新型コロナウイルスの影響により入館者数が激減しましたが､2021 年度は新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底しつつ、年度後半にかけて入館者数を増加させることができるよう広報および団体誘致に努めます。

(1) 展示室の運営

①展示室および展示の保守・管理

来館者が安全・快適に見学でき、当館見学の目的をより良く達成することができるよう、常に展示および設備の保守・点検・修理・改善等の整備を実施し、展示空間の環境向上に努めます。

②展示の解説および実演

約 20 の常設展示室およびコーナーにおいて、スタッフによる展示解説を行うとともに、実験演示プログラムを感染予防対策を施した新バージョンへ改編し、順次再開します。

③入館者の安全管理

日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染 拡大予防ガイドライン」に基づいて作成した科学技術館のガイドラインに則った対応を行いながら、これまでどおり館内での事故・怪我・病人の発生、また災害時や緊急時には、来館者の応急処置・救急車の要請等の必要な対応を適切に行います。

④多言語化

外国人来館者に向けた情報発信を、館内サインやウェブページ、リーフレットで行います。

(2) 広報活動

①ウェブページ等による広報活動

常設展示・特別展・館内で開催する各種イベント等について、ウェブページやメールマガジン、twitter 等の SNS により常に最新の情報を発信します。特にウェブページについては、よりわかりやすく情報を提示できるような改善を図ります。

②ステークホルダーと連携した広報活動の展開

科学技術館の展示や各種イベントを、多くのステークホルダーとの連携により計画実行していくに

あたり、ステークホルダーが有する広報チャンネルにも展開させていただくことで、当財団・科学技術館単独で行う以上の範囲と対象者への広報活動を行います。

③入館者誘致活動

1) 団体来館者のデータから履歴や利用状況を分析し、継続的な利用や新たな来館への誘致に繋がる営業活動を計画検討します。

2) 学校団体の利用クオリティの向上に繋がる展示に関する情報の提供を図ります。

(3) 館内施設の活用

実験工房・実験スタジアムＬ・イベントホールをはじめ、回廊部壁面を利用したギャラリー展示など館内施設を有効に活用して、ステークホルダーと連携したイベント等の展開を図ります。

(4) 連携・交流事業

①博物館連携活動

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、東京都博物館協議会などの組織を通じて、全国の博物館をはじめ、特に理工系博物館との連携を深めるとともに、各種会議、研修会等に参加出席し、情報交換と職員の資質向上を図ります。また、機会を利用して海外の博物館との積極的な交流を図ります。

②地域との連携事業

千代田区や千代田区ミュージアム連絡会加盟の社会教育施設・団体と連携し、地域活動に貢献します。

③企業との連携事業

1)イベントの開催

社会貢献事業を積極的に展開する企業に働きかけ、各社事業の特徴に相応したCSRプログラムの新規共同開発や、話題性・新規性のある教室やイベント等を企画開催します。具体的には、中外製薬株式会社「細胞の観察とDNAの抽出実験」等を実施するほか、新規連携先の開拓を図ります。

１－２．特別展・イベント等の開催

春休みや夏休みなど学校休暇期間を中心に、新型コロナ禍でも対応できる手法の特別展やイベントを企画または誘致して開催します。また、出展者をはじめご支援いただいている団体や企業、さらには新たな分野の団体や企業と連携した特別展やイベントの中長期的な計画を行っていきます。

(1) 特別展

①夏休み特別展「スポーツの科学（仮称）」の中止と代替イベントの開催

夏休み特別展「スポーツの科学（仮称）」は新型コロナウイルスの影響で中止を決定しました。秋以降に別途代替の特別展・イベントを開催します。

(2) イベント

①「ワクエコ・カーモデラー教室」

自動車展示室「ワクエコ・モーターランド」において、プロのカーモデラーの指導により工業用クレイを使ったカーモデル造作教室を行います。

会期：2022 年 3 月（予定）

主催：日本カーモデラー協会、一般社団法人日本自動車工業会

②「 夢・化学－２１」なぜなに？かがく教室

主に小学生を対象とする実験や工作・観察を通じて、化学の面白さや不思議さを体験してもらう教室を主催者と連携して年間を通じて 6 回程度開催します。

主催：「夢･化学－２１」委員会

③春休みイベント「スプリング・サイエンス・カーニバル（仮称）」

春休みに子供を対象とした実験工作教室を開催します。

④企業等との連携イベント

夏休み石炭実験教室（一般財団法人石炭エネルギーセンター）、生物実験教室（中外製薬株式会社）など企業と連携したイベントを開催します。

１－３．アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積された教育プログラムや実験演示の企画開発力や実施のためのノウハウを、全国の科学館・各種イベント等において展開実施します。

⑴ 出張実験実演・実演支援

ステークホルダーが関係しているイベント等に向けて、教育プログラムや実験演示、工作教室等を開発し、当館スタッフを派遣しての教育指導や実施運営等を要望に応じて行います。

⑵ 巡回展示物の貸出し

①本年度は、「ラ・ビレット展」、「地球環境展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 ♯SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「科学戦隊実験ジャー」、「光の世界（仮称）」の 11 アイテムを巡回展示物として積極的な貸し出しを行います。貸出先のニーズに対して様々な提案を行いながら、科学館、博物館はもとより､展示面積が狭い児童館や公民館､学校等でも利用できるように運用計画を作成しています。

②付加価値を高めるために科学実験ショーや、ワークショップ、工作などのソフト面での提供も含めて巡回事業を実施します。

１－４．展示の新設、更新、実験体験プログラム開発など

科学技術の進歩や産業構造の変遷等を捉え、時代の変化と求めに呼応した情報提供や新しい技術を活用した展示を世に送り出すため、展示・展示室の新設・更新を行います。また、同様の目的をもって実験体験プログラム等の企画・開発を行い、常設展示内の実験演示や特別展やイベントで活用します。

(1) 展示新設

①最新映像技術を応用した科学的な視覚体験ができる展示装置整備

（一般財団法人日本宝くじ助成事業）

科学技術館の新展示として、最新の映像技術により科学的な視覚体験が得られるコーナー「VISION」(ビジョン・仮称)を整備します。この展示は自分自身が被写体となり、他では体験できない映像空間に没入することができるものです。これによって、関連する科学や技術への興味を喚起し、未来を創る人材の育成に寄与することを目的としています。また、この新展示により科学技術館全体の集客力を高め、科学技術の普及啓発を図ります。

(2) プログラム開発

①展示室で実施しているワークショッププログラムの改善

「FOREST ワークス」「鉄の丸公園１丁目」「DENKI FACTORY」「実験スタジアム」「アトミックステーション　ジオ・ラボ」「クスリウム」「ワクエコ・モーターランド」「ものづくりの部屋」など常設展示室で実施している実験・ワークショッププログラムについて、感染予防対策を施した新バージョンへ改編し、社会の話題や情報ニーズに応じたコンテンツの加除を行なうとともに、来館者の体験クオリティを担保するためのチェック等を適宜実施します。

１－５．他館の運営

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学・技術への興味関心の拡大ならびに知識の普及啓発に貢献します。

１－５－１．所沢航空発祥記念館の運営　（埼玉県委託事業）

わが国初の飛行場として 1911 年に開設された「所沢飛行場」は、埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっています。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により 1993 年に同公園内に設置されました。館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり、展示設計・施工監理等に携わり、開館後 27 年間運営を担っています。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し埼玉県指定管理者となっています。

コロナ禍にあっても安全安心を最大限担保し、感染拡大抑制のためガイドラインを遵守したうえで、以下事業活動を実施してまいります。

(1) 展示館の運営

①安全を第一に、日常の入館者対応、展示解説・実演等を行なうとともに、展示物の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施します。

②開館から 25 年以上経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施

し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行います。

③埼玉県との連携のもと、展示館内実機のレイアウト変更、ローテーション等を計画・実施するとともに、県による設備交換工事計画の実施に協働します。

④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行い、展示や教育普及活動への応用ならびに効果的な活用を図ります。

⑵ 大型映像館の運営

①展示館とならんで所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一に日常の運営活動を滞りなく実施します。

②上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマのみならず、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も組み入れ、公園のビジターセンター的役割も果たせるよう、老若男女が親しめる施設を目指します。

③シアター設備を活かし、まだ大型映像館を利用したことのない来館者にも訴求する活動として、当財団他部門事業と連携した科学技術映像祭入選作品上映会等、無料上映会の適時開催を図ります。

⑶ 特別展の開催

①航空自衛隊より貸与を受けている日本初の動力飛行を記録したアンリ・ファルマン機に関連した特別展を計画・開催し、県民・市民が親しみを持つ同機を通して、航空への興味・関心の拡大・普及を計画します。

②航空輸送、航空機製造、整備、航空管制など、航空に関係する広い分野の企業等との共同催事の計画を通して、話題の提供及び興味・関心の拡大を図ります。

⑷ 施設の運営保守と安全管理の徹底

①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底します。

②利用者にとってのバリアの低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めます。

③安全最優先のための館内各所への適時対策実施をはじめ、各種サイン掲示等による事故未然防止、防犯カメラ設置、警備員定期巡回、機械警備等、保安と安全管理に努めます。

④年２回の消防訓練が正しく実践につながる様スタッフへの教育と情報共有を実行します。

⑸ 連携活動

①埼玉県、所沢市をはじめとする周辺の自治体・団体・企業等との連携活動を積極的に計画していきます。

②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図ります。

③航空系博物館どうしの情報交換、展示物・収蔵資料の館間貸借、またそれらを基とした特別展の開

催等に繋げていくため国内外の航空系博物館との積極的連携を図ります。

⑹ 柔軟で弾力的な運営への取り組み

コロナウイルス感染症拡大抑制に繋がる各対策をはじめ、不測の事態への対応力と柔軟性を持ち、施設として本来の目的を維持達成できるよう対応対策に努めます。

また、各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋げます。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には、固定休館日である月曜日も開館とする等、来館者分散と利便性向上を目的として可能な対応を実施します。

⑺ 広報活動

①展示館及び大型映像館に係る入館案内のほか、特別展の開催情報やイベント開催案内等、常に最新の情報を発信します。また、余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、ともに共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力し園内広報を進めます。

②来館者はウェブページによる事前の情報収集の割合が高いことを踏まえ、近年利用者が増えているスマートフォンやモバイル端末への効果的な対応を目的に更新したウェブページを積極的に活用し、最新情報の発信に努めます。

③市内・県内からの利用者が多くを占める施設であることから、県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のポータルサイト、コミュニティＦＭラジオと積極的に連携しＰＲを図ります。

④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、埼玉県内の博物館、国内の航空系博物館、また近隣の科学館とも連携し、広報物の相互配架を実施します。

⑻ 普及啓発活動

①飛行機工作教室の実施

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室等を計画・実施します。

②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

当財団の持つノウハウを活かして、小学３年から６年生を対象とした会員組織を運営し、「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた実験・工作・電子工作・自然観察・施設見学など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室として実施することにより、青少年に航空や科学に興味を持ってもらう機会を提供します。

③ワークショップコーナーの運営

科学技術館におけるノウハウを活用して来館者とのコミュニケーションを軸にわかりやすく実験工作を解説演示するワークショップコーナーを運営する。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的に開催し、新しい演示プログラムの導入、既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して科学・技術への興味・関心を促します。

(9) ボランティア活動の充実

ボランティアの活動機会として、飛行機工作教室、YS-11 特別公開、常設展示解説や解説ツアー等を計画する。ボランティアスタッフの経験と豊富な知識を来館者へ提供する機会とすることにより航空への興味・関心に繋げます。

(10) ミュージアムショップ及びレストランの運営

当館の附帯施設であり指定管理業務における自主事業であるミュージアムショップ及びカフェレストランを運営し、来館者・来園者に対するサービスの向上を図ります。

(11) その他の活動

①開館以来 25 年以上を経過したことで老朽化や情報劣化等が課題となる常設展示及び館施設について、日常的業務では修繕や情報更新を行い品質の維持向上を図ります。また、埼玉県との相互連携のもと館リニューアル計画に繋がる中・長期計画の策定に努めます。

②埼玉県による「施設の長寿命化計画」を協働して推進します。

③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、イベント等の共同開催を計画実施します。

１－６．教育文化施設に対する企画・開発・保守支援事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行います。

(1) プレアデス事業による新規設置

①特殊映像システムの受注を目指します。

②地方公共団体及び民間企業のデジタルドームシアターの設置に関わる業務受注を目指します。

③既存施設の機器更新の提案と受注を目指します。

(2) プレアデス事業による保守、運営支援

①サイエンスヒルズこまつ３Ｄスタジオ保守点検業務（小松市委託事業）

(3) 企画開発業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる企画開発業務の受注を目指します。

(4) 運営保守業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる運営保守業務（指定管理者、PFI）の受注を目指します。

２．科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門

家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

２－１．サイエンス友の会の活動

４歳から大人までと対象年齢を拡充し家族単位も考慮した随時入会できる新しい制度を立ちあげます。特典は年間入館パスポートを主体としますが、新型コロナウイルス感染症対策も考慮して、これまで友の会で行ってきた「実験教室」や「工作教室」等から厳選し、“サイエンスを追求するための基盤となる手法を学ぶ”ことを目的としたプログラムを毎月２回（夏期休暇時などには追加の場合あり）実施します。

２－２．科学技術体験イベントの開催

(1)「青少年のための科学の祭典」の開催

①青少年のための科学の祭典全国大会

理科実験や工作の実体験を通して、青少年の科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を増進させることを目的として、「青少年のための科学の祭典 2021 全国大会」を開催します。本年度は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が、新型コロナウイルスの感染拡大により 2021 年に延期されたことから、オリンピックとパラリンピックの間の期間に、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底し、従来よりも出展者及び参加者を制限するなどして開催することを目指します。

会期：2021 年 8 月 13 日（金）～ 8 月 14 日（土）（予定）。

②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する約 70 の大会を予定しており、全国で開催される「青少年のための科学の祭典」とのネットワークを強化します。

(2) 少年少女創造性育成事業業務　（公益財団法人市村清新技術財団 委託事業）

市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式及び入選作品展を開催するとともに、小中学生を対象とし、複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを 2 回開催します。

(3) STEM 教育プログラムの実施　（ボーイング社助成事業）

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができる STEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育に基づいたサイエンスショー、ワークショップなどの STEM プログラムを、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底し、オンラインも活用するなどして実施します。

(4)「（仮称）技術と科学の Charinko WORLD」の開催（2021 年度 JKA 補助事業（申請中））

自転車発明の歴史を、その時代の発明や発見、文化と共に紹介するとともに、科学の目で自転車を分解、五感を通して理解を深め、自転車と科学・文化を体験型の大型特別展を実施予定です。
会期：2022年3月25日（金）～4月3日（日）、目標来館者数：15,000人

２－３．科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピック2021の開催、第32回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣（国立研究開発法人 科学技術振興機構支援事業）

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動です。国内大会「日本生物学オリンピック2021」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、7月に予選をCBT(Computer Based Testing)で実施することとし、9月に本選を日程を短縮して開催します。

①日本生物学オリンピック2021の開催

成績優秀者から、2022年にアルメニアで開催される第33回国際生物学オリンピック日本代表4名を選抜します。

②第32回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

2020年度に開催された日本生物学オリンピック2020代替試験で選抜された日本代表4名を、7月にポルトガルで開催予定であった第32回国際生物学オリンピックの代わりに開催されるIBO Challenge 2021に参加させます。

２－４．教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催（公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業（予定））

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや、細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動でも役立つ実践的な理科実験の講習会を、主に小中学校の教員を対象として、物理・化学・生物・地学の分野毎に開催します。新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底し、従来よりも参加者を制限するなどして実施します。

２－５．科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

(1) 第62回科学技術映像祭の開催

科学技術週間の行事として、科学技術館サイエンスホールにおいて、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞をはじめとする各賞の表彰式と入選作品発表会を、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底しつつ開催します。また、科学技術映像の普及啓発のため、入選作品の上映会を全国の科学

館で実施します。

２－６．放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

(1) 放射線・エネルギー等に関する理解促進事業

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図っていきます。

①放射線教育を行う教育職員に対して放射線教育授業実践事例、指導案、放射線に関する資料等を提供する情報提供事業

②学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修及び児童生徒等を対象とした出前授業を実施する事業（文部科学省委託事業（予定）等）

③「青少年のための科学の祭典」等でのエネルギー・放射線教室

④放射線について児童生徒が学ぶための放射線教材コンテスト事業

３．科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業

来館者の意識や動向を把握するために科学技術館来館者調査、展示や教育、運営に関する調査を行います。調査結果は現場で活用するとともに、可能な限り科学教育学会、ミュージアムマネージメント学会等で発表します。

Ⅱ．情報システムの設計開発と運用サービス事業　（ 348 百万円 ）

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術、人工知能などを基に、官公庁および関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託し、財政基盤の安定化を図ります。

また、重要な経営資源である情報資産を安全かつ安定的に利用できるよう情報セキュリティ対策、ＢＣＰ対策に取り組みます。

１．情報システムの設計開発

⑴ データベース技術、ネットワーク技術、人工知能を応用した情報システムの設計開発

データベース検索システム、教育機関や官公庁等における業務処理システム、通信教育支援システムなど、データベース、ネットワーク、人工知能に係る情報システムの設計および開発・保守業務を受託し、実施します。

⑵ 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

製造業関連の民間企業を中心に、PLM システム、生産シミュレーションシステムなど、生産管理に係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

⑶ マルチメディア・データベースシステムおよびインターネット関連システムの設計開発

博物館や文化施設向けにマルチメディア展示システム、ネットショップをはじめとする Web 関連システムなど、展示やインターネットに係る情報システムの設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

⑷ 解析・シミュレーション等の技術による新エネルギー関連システムの設計開発

太陽光発電システム、電力供給関連シミュレーションシステムなど、電力エネルギーに係る情報システムの設計および開発業務を受託し、実施します。

⑸ その他

官公庁および関連機関や民間企業の Web による情報発信業務等の設計および開発・サポート業務を受託し、実施します。

コロナ禍において需要が見込まれる EC（電子商取引）や流通に係る分野、DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みを強化します。

２．情報システムの運用サービス

官公庁および関連機関、通信教育団体等を中心に、インターネットを活用した情報処理システム等の運用サービス業務を受託し、実施します。

あわせて、コロナ禍における Web システムの需要に対応すべく情報セキュリティ対策、ＢＣＰ対策を強化します。

Ⅲ．科学技術館施設の利用促進事業　（ 340 百万円 ）

科学技術館は公共性の高い施設のため、入館者の感染症対策を含め、安全確保、施設整備等の対策強化に努めます。また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めます。

１．建物および建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めます。

２．館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を、科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせて、レストラン、ミュージアムショップ、スタジオ等関連する施設の運営委託を行います。

Ⅳ．補助を得て実施する事業　（予定）

2021 年度は、公益財団法人ＪＫＡから競輪の補助金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年４月の自転車等機械振興事業の採択および補助金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年６月の理事会において再度議案として諮る予定です。

１．公益財団法人 ＪＫＡ　競輪補助事業　（自転車等機械振興事業）

(1)「自転車発明と科学技術と文化的背景をテーマとした特別展開催による普及啓発及び生活向上への取組」補助事業

①申請額

補助金	44,000 千円
自己資金	11,000 千円
事業費総額	55,000 千円

②事業概要

自転車発明の歴史を、その時代の発明や発見、文化と共に紹介するとともに、科学の目で自転車を分解、五感を通して理解を深め、自転車と科学・文化を体験型の特別展により、一層自転車自身や進化を支える科学技術に対する興味関心を図ります。また自転車発明の中で生まれた文化である自転車競技についても紹介、オリンピック種目である競輪やさまざまな自転車競技の魅力を伝え、自転車のファンを増やし、自転車文化の普及啓発に寄与します。

Ⅴ．助成を得て実施する事業　（予定）

2021 年度は、一般財団法人日本宝くじ協会、公益財団法人日本財団、独立行政法人国立青少年教育振興機構、公益財団法人東京応化科学技術振興財団より助成金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年 4 月の各助成事業の採択および助成金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年 6 月の理事会において再度議案として諮る予定です。

１．一般財団法人 日本宝くじ協会　宝くじの社会貢献広報事業

(1) 最新映像技術を応用した科学的な視覚体験ができる展示装置整備

①申請額

助成金	43，000 千円
自己資金	0 千円
事業費総額	43，000 千円

②事業概要

科学技術館の新展示として、最新の映像技術により科学的な視覚体験が得られるコーナー「VISION」(ビジョン・仮称)を整備します。この展示は自分自身が被写体となり、他では体験できない映像空間に没入することができるものです。これによって、関連する科学や技術への興味を喚起し、未来を創る人材の育成に寄与することを目的としています。またこの新展示により科学技術館全体の集客力を高め、科学技術の普及啓発を図ります。

２．公益財団法人 日本財団助成事業

(1) 「自然現象のメカニズム」を学ぶ巡回型展示物の制作　その２

①申請額

助成金	6,800 千円
自己資金	1,700 千円
事業費総額	8,500 千円

②事業概要

2020 年度日本財団より助成を受けて制作した、「身近に起こる自然現象のメカニズム」 の続編として、「発生頻度の低い、突発的に起こる自然現象のメカニズム」というコンセプトのもとに、一部自然災害のメカニズムに触れながら、空、陸（川)、海で身近に起こる自然現象のメカニズムに関する展示物を約 10 点制作します。また、自然現象の疑問を解決するために、タブレットを使った学習探索ツールを併せて制作し、巡回型展示物の一部としてパッケージ化します。

自然現象に対しての再認識と理解増進を目的とし、科学技術分野の人材育成に寄与できるよう努めます。また、2022 年春にミニ特別展を開催します。

３．独立行政法人 国立青少年教育振興機構　子どもゆめ基金

(1) 青少年のための科学の祭典 2021 全国大会

①申請額

助成金	6,000 千円
自己負担	1,984 千円
事業費総額	7,984 千円

②事業概要

参加体験を基本コンセプトとして子どもから大人までが観て学び楽しむことができる様々な実験・実演ブースを全国から参集し、開催します。本事業では、子どもたちが科学の「楽しさ・面白さ」に触れ実体験できる場（きっかけ）を通じて、子どもたち同士が交流できる活動を展開します。

４．公益財団法人 東京応化科学技術振興財団　科学教育の普及・啓発助成事業

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～

①申請額

助成金	300 千円
自己負担、参加費	560 千円
事業費総額	860 千円

②事業概要

小学校・中学校の教員を対象とした理科（物理・化学・生物・地学）に関する講座を年 4 回（8 講座）開催し、授業で役立つ実践的な手法や理科実験を盛り込んだプログラムを実施します。

(注) 上記の内容は申請時点のものです。